

～ 『篠笛と語りのゆうべ』 が開催されました！ ～

7月17日（土）修禅寺壇信徒会館において『篠笛と語りのゆうべ』が開催されました。小野さゆりさんの美しい篠笛の調べとともに、君川みち子さんの温かい山形弁の語りを150の方が楽しみました。

第一部では、篠笛演奏、懐かしい『笛吹き童子』のテーマも聞くことができました。第二部では、語りによる『蜘蛛の橋』『さるのひとりごと』『狐のあん餅屋』、アンコールでは篠笛と合わせて、お月様の笑い話を聞かせていただきました。

お二人は、10月開催の『全日本語りの祭り』2日目（10/3）の『語りの集い』にも出演されます。今回お越しになれなかった方も、是非、当日を楽しみにしてください♪



静岡県の昔話 ⑤

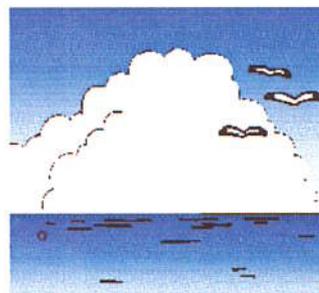
～ 『初島の初木姫』 ～

熱海市、初島には、こんな話が残っています。

その昔、九州から東に向かった船が伊豆半島の沖で暴風にあって沈み、ただ一人初木姫だけが初島に流れ着きました。島には、きれいな水も流れていました。そこで姫は、魚や貝をとって、一人でこの島に住むことにしました。しかし、日がたつにしたがって、さみしくなりました。

海の向こうに人が住んでいるだろうか、と考えた姫は、夜になると毎晩かがり火を焚きました。火を焚いて、幾日かたったある夜、伊豆山の伊豆山彦命いすさんひこのみことという人がこの火を見て、やはり火を焚いてくれました。これを見た姫は島を出る決心をしました。幾日もかけて草を編んで筏の帆を作り、海に出ました。そして、伊豆山の小匂戸崎こはとぎさきに渡りました。

姫は、迎えに出た伊豆山彦命と伊豆山の橋の上で逢うことができましたということです。そこで、この橋のことを逢初橋あいにしはしと呼ぶようになったということです。



（熱海には、源頼朝と北条政子のお話も残っています。）

『むかしこんなはなしがあったとき 熱海の民話と伝説』

（熱海青年会議所創立30周年記念誌）より

お問い合わせは、

修善寺図書館 0558-72-9868 までどうぞ！

『語りの祭り』情報は、

<http://www.shuzenji.jp/np0/katari/index.htm>

にも掲載されていますので、御利用ください。

編集後記

イベントも全て終わり、あとは本番を待つのみとなりました！
実行委員会では、今回の目玉である『あちこち語り』の準備も着々とすすめています。どうぞお楽しみに！

（Y・K）